

取組概要

渡町台小学校では、前年度の達成状況・取組状況等を踏まえ、重点目標を「知・徳・体を構成する資質・能力」で示すとともに、学級の実態を踏まえ焦点化・重点化した目標を学級経営案に位置付け連動を図っている。目標の実現に向けて、教員個々の主体的な取組を促しながら、2か月ごとに検証・改善を図っている。

工夫・ポイント

- ◆ 達成状況・取組状況の検証・改善の際には、客観的なデータ（数値）、教員の主観（児童の実態把握）、外部評価等を組み合わせている。
- ◆ 上記の検証・改善を踏まえ、学年・内容ごとの重点目標を具体的に設定している。
- ◆ 課題の解決に必要な情報を取り出すことができるよう、ノート指導のための教具や学習の履歴（掲示）等、学習環境を整備している。

特徴的な活動

- ◆ 中学校区の指導教諭連絡会を開催し、「情報の取り出し」「整理分析」「表現」等の実態を把握し、指導の焦点化・具体化を図っている。
- ◆ ノート指導について、低学年のノートと同じマス数のホワイトボードを作成し、児童が「どこに何を書くか」が分かるようにしている。中学年以上の算数はA4のノートを使用し、「自分で整理・創るノート」づくりを進めている。

関係者の声

- ◆ 目指す授業像の実現を図るため、子ども観の転換を図ることが必要だと感じている。授業における子どもの姿で確認するため、事例の共有に取り組んでいるところ。
- ◆ 目標は大枠で示し、児童の実態を踏まえた具体的な取組は個々の教員が考えるようにする。それが教員の主体性を育成することにつながる。



ノートと同じ形式のWB



必然性のあるペア・グループ活動
(話し合う目的・方法を自覚した学び)



子どもの思考と話し合いの過程が分かる板書